

## 【資料】

## オランダにおける教員養成の取り組み

～オランダ教育視察から～

谷 哲 弥\*

## 1. はじめに

『教員は、どのように教育活動における資質・能力を高めていくのであろうか』を問いとした修士論文に関連して、筆者は、資料収集を進める際に「省察（リフレクション）」と「コーチング」という言葉に出会った。省察の1つのモデルとして ALACT モデル<sup>i</sup>に触れるとともに、基礎的なコーチングの手法についても学んできた。

また、大学院の講義では、オランダの教育、特に教員養成の取り組みについての情報を得て、知的な刺激を大いに得たことから、それらに関する情報を直接聞き取りたいという欲求が高まっていた。

大学院教員の進めがあり、本学教育学部講師に着任した2018年度（2019年2月）と2019年度（2020年2月）に、オランダ（ユトレヒト、アムステルダム等）における教育視察<sup>ii</sup>に参加することができた。

この二度にわたる教育視察では、オランダの教育制度、複数の学校訪問、教員養成大学における養成カリキュラム、コルトハーヘン名誉教授（ユトレヒト大学）による「省察研修講座」等、多岐にわたる見聞を得たが、本稿では、オラン

---

※2020年度 一般研究 谷 班

研究代表 谷 哲弥

i 教師教育学：理論と実践をつなぐリアリスティック・アプローチ 2021年 学文社  
Fred A. J. Korthagen（原著）、武田信子（翻訳）

ii オランダへの教育視察の計画は、京都教育大学教育学部村上忠幸教授による。現地での案内・通訳は仲本かな氏。仲本氏は現在アムステルダム De Blauwe Lijn 小学校教諭として勤めている。日蘭通訳翻訳者および教育視察コーディネーター。

<https://www.deblauwelijn.nl/pg-28099-7-106532/pagina/welkom.html>

ダの教育制度（概略）と教員養成大学（the Marnix Academy<sup>iii</sup>）における養成カリキュラムに関連する省察（リフレクション…以下、省察）などについて紙面を割きたいと考える。

オランダ教育視察日程の概要は以下の通り。

2019年2月視察実施について

滞在先 Holidayinn express Utrecht Papendorp<sup>iv</sup>にて、2月15日～20日

15日（金）12:30～16:00

Fred A. J. Korthagen による研修（in Utrecht, Hotel Midland）

リフレクションについて

17日（日）9:30～12:00

NEMO（in Amsterdam アムステルダム科学技術センター<sup>v</sup>）

18日（月）8:15～14:00

Primary school Onder de Bogen<sup>vi</sup> in Utrecht

13:30～16:00

コーチングとリフレクションに関する講義（the Marnix Academy）

19日（火）8:30～13:30

secondary school Pouwer college<sup>vii</sup> in Utrecht

ユトレヒト市内歴史案内

Luc de Bakker（a history teacher of the Marnix Academy）

20日（水）8:15～13:30

Primary school De Groene Alm<sup>viii</sup> in Utrecht

同 14:30～16:30

マルニクス・アカデミーの実験室・視聴覚スタジオ等見学、ロボットやプログラミング体験と講義

---

iii <https://www.marnixacademie.nl/>

iv Van Deventerlaan 10, 3528 AE Utrecht Netherlands +31 308201060

v <https://www.nemosciencemuseum.nl/nl/>

vi <https://www.ksu-onderdebogen.nl/en/>

vii <https://www.pouwercollege.nl/>

viii <https://www.ksu-opdegroenealm.nl/>

2020年2月視察実施について

滞在先 Holidayinn express Utrecht Papendorp 2月15日～20日

16日(日) 10:00～12:00

NEMO (in Amsterdam アムステルダム科学技術センター)

17日(月) 10:00～12:00

secondary school Seyster College<sup>ix</sup> (in Zeist,)

同 14:00～16:00

the Marnix Academy (in Utrecht)

Meeting some Dutch students at the Marnix Academy

19日(水) 12:30～16:00

Fred A. J. Korthagen による研修 (in Utrecht, Hotel Midland)

コア・リフレクションについて 講義と実習

20日(木) 13:00～15:30

Primary school de Brug<sup>x</sup> (in Utrecht, jenaplan school)

## 2. オランダの教育制度 (概略)

オランダの教育体系は、初等教育・中等教育・高等教育に分けることができる<sup>xi</sup>。

初等教育は、満4歳になると入学ができる(第1グループ)。満5歳から、第2グループと呼ばれ、義務教育が始まり、16歳までが義務教育とされている。初等教育は8年生となっている。(第1グループが4歳で、第8グループが満11歳である。)

中等教育には、中等職業訓練学校準備コース(4年=VMBO: Voorbereidend middelbaar beroeps onderwijs)、高等職業専門学校準備コース(5年=HAVO: Hoger algemeen voortgezet onderwijs)、大学準備コース(6年=VWO: Voorbereidend wetenschappelijk onderwijs)の3コースがあり、この中から進路を選択する。各コースには、ブッリジクラスと呼ばれる期間が設定され、コースの選択変更を可能にしている。

ix <https://www.seystercollege.nl/>

x <https://www.jenaplandebbrug.nl/>

xi リヒテルズ直子著 オランダの教育 2004年9月 平凡社 p.127

高等教育には、中等職業学校（1年～4年＝MBO：Middelbaar beroeps onderwijs）、高等職業専門学校（1年～4年＝HBO：Hoger beroeps onderwijs）、大学（学士最低3年、以後は修士課程への進学年＝WO：Hoger onderwijs）がある。中等職業学校から高等職業専門学校へ、また高等職業専門学校から大学へと進路変更されることもある。

### 3. the Marnix Academy 視察における教育情報

（但し、3-1～2は2019年の情報／3-3～7は2020年の情報）

#### 3-1. 学校体系の中での位置づけ

小学校からHAVO（5年制）への進学の際に3つのコースがあり、

- a) 4年生から中間職業トレーニングへ
- b) 5年生から応用大学へ
- c) 6年生から応用大学、そして上級校へ

教員養成は応用大学の一つで、マルニクス（the Marnix Academy）は4年制の教員養成課程である。この養成課程においては、教育実習と省察を重視している。社会の変化から来る教員の資質についての議論としては、子どもの変化に応じた教育ニーズにあう教員が求められているとして、21世紀スキル（協力・コミュニケーション・ICT・創造性・クリティカルシンキング）を重視するとともに、知識以上に、技能を重んじている。そして、持続可能な社会を可能にするシチズンシップ教育（市民教育）、社会参加、意見の違う人とのつながり、地球環境とのつながりを重視できるスキルも学生に求めている。一方で、学生に対応したパーソナライズ教育（個別教育）も進めている。

しかしながら、最近の教育問題としては、教員不足、教員の高齢化に加えて、教員の離職が多い、教員志望の若者が少ない等が問題となっている。その部分への手だてとして、ある銀行の退職者を銀行が教員への道を案内して、教員のなり手（枠）を増やそうとしている事例もある。現場からはインクルーシブが進む中で、指導の困難さが報告されているとのことである。

#### 3-2. 教員養成課程（2020年迄）について

2020年までの教員養成課程では、講義内容は、学校の教科と教師教育学が中

心であった。教科内容としては、1 教育学（教師教育学と教育学）/2 数学/3 言語・オランダ語/4 英語/5 工作・創作/6 体育/7 演劇・ドラマ（子どもの社会性 表情 立ち方 歩き方）/8 音楽/9 地球/10 生物/11 美術である。学年ごとの各週5日間の学びは次の通りの実施がされている。

以下の表には、上段には、1週間（5日間）を示した。下段には1日の活動を単純化して示した。1年生と2年生は5日間のうち、4日間を大学での講義による学習やテストを行い、残りの1日を教育実習として過ごしている事が分かる。

表-1 【1年生および2年生の1週間】

1	2	3	4	5
講義による学習・テスト				教育実習

特に1年生の教育実習では、次の4つの内容を学ぶ場として位置づけられている。

- ア) 子どもはどのように学ぶのか
- イ) 子どもたちとどのように会話をするのか
- ウ) 学校とはどんなものか
- エ) 授業の方法を学ぶ

表-2 【3年生および4年生の1週間】

1	2	3	4	5
講義による学習・テスト			教育実習	

\*3年生と4年生は、自分でテーマを決めて教育実習を送ることができる。その結果得られた学びと、大学の講義による学びと、省察することになっている。また、学期末には、教科毎のテストが行われる。

すなわち、2年生なら、週の4日分の大学の講義による学びとテスト、および1日分のインターンシップに関連するテストが実施される。3年生と4年生では、週の3日分の大学の講義による学びとテスト、および2日分のインターンシップに関連するテストが実施されてきた。

\*ここまでは、2019年の視察の際に得られたものである。

### 3-3. 教員養成課程（2021年以降）への変更経過について

昨年度までの教員養成課程に対して、新教員養成課程（2021年以降）が次のような背景によって計画が変更された。すなわち、教員養成課程が変更された背景には、以前の養成課程で学ぶ学生の声を集めた結果を尊重して養成課程の変更が行われたということである。

指摘された点は、次の5点である。

1. 講義内容の多くが重なっているため、学ぶ内容が多い。一方で、教科間のつながりが少ない。2. 学びを選びたい。3. 自分で（学びのテーマを）決定したい。4. プログラム相互のつながりや関連を持たせ、得られた理論を教育実習で試したい。（学生には、子どもの特性にあったサポートができる教員として成長したいという願いがある。）5. 評価の方法に対する声。「小さなテストではなく、テストのためのテストではないものを」という声。

これらの指摘を検討した結果、教科を統合する（integrate）ことと、評価に学生の学びや成長が見えるような工夫（Feedback reflection）が取り入れられた。

具体的には、学生が自己の振り返りの中に、自分の成長を書くこと（例－準備／実際 目標／学習記録）で、自分の学びを省察する環境が整えられるようになったようである。

振り返りという言葉は、日本でも使われて久しいが、次に示すような集団的な振り返りを「省察（せいさつ）」と呼び、実習学生の授業とその成果・課題について、学生本人の学びを引き出し、今後の実習に生かす方向が確認されるという手続きを意味している。

また、この「省察」をよりよく成立させるためのコーチング手法を学ぶ授業が準備されている。これは、実習授業学生、授業参観学生、大学教員の10人くらいで、1週間の実習中の出来事、エピソードを振り返る活動である。主に大学教員が指導役（メンター）を行い、学生は助言される側（メンティー）となることから、メンタリングと呼ばれるものになる。

### 3-4. 教員養成課程（2021年以降）の構成について

2021年からの新カリキュラムでは、教科毎ではなく、大きなテーマを前に出した（インテグレートした）学びを設定する予定であり、大きなテーマの評価（アセスメント）を1年ごとに行うと計画されている。これにより、学生に対し

て、自分の学びを管理できる力が養成されることを期待している。学年別の週の学びは以下ようになる。

表-3 【1年生】

1	2	3	4	5
インテグレイト	アセスメント	インテグレイト	アセスメント	インターンシップ アセスメント

表-4 【2年生～4年生】

1	2	3	4	5
インテグレイト アセスメント			インターンシップアセスメント	

この表からは、学びとアセスメントが明確に示されることで、より一層フィードバック文化が養われていくと考えられる。

### 3-5. インテグレイト志向の難しさ

この変更により、学生の積極的な学びへの取組が能動的に展開されると期待できるが、これまでの教科別の学びから、テーマを設定した学び（インテグレイト）に移行していくことと教育実習による学びの関連の難しさが指摘された。

学生が自分の教育実習において、何をテーマにするのか、子どもの目線や教員としての視点をどのように設定するのかを検討することになる。すなわち、教師になるための大事な柱とは、何かという内容検討が必要になる。

2017年から新しいコンピテンシーが提案されたが、学生には内容が抽象的だったので、オランダ全体で書き換えて、プロフェッショナルアイデンティとして、教科教授法／教科の内容知識／教育学に整理された。

それぞれの内容には、省察が含まれている。これにより、常に省察することが可能になった。すなわち、自分の学びを振り返ることができる。自分自身の成長計画を立てることができる。また、他人からのフィードバックを受け入れる文化が醸成される。ポジティブな面と、ネガティブな面を交えて、省察を進める力が養われる。その結果として、子どもたちにとって必要なフェードバックを考えることのできる力が期待される。

### 3-6. 省察における対話について

省察においては、その対話の質と価値に気を配る必要があり、対話を行うことが成長のエンジンとなる。このエンジンとは、成長の価値と同義である。ここでの対話とは、学生が、自分の経験と自分が信じることや有効なことを語ることであり、教育実習で授業をすることでクラスの成長を見る（測る）ことができるようになることが期待される。このため、省察においては、同一視点での対話が必要になる。

教育実習におけるアセスメントでは、対話カードを用いて、意味のあるトピックス／コンピテンシーにかかわる内容を分類整理して行われることが重要である。すなわち、教育実習でのクラスの学びを探るような（対話の奥にあるものを探りながらの）対話が必要になる。

そして、これまでのマインドセットを変えるために、思い込みを避けて、対等なパートナーとして、心を解放することと好奇心を持って接する。すなわち、信頼関係がある中で進められることが求められる。

対話例は、次の通り。対話例1「どうしてそれをしたのか」（教育的行為について振り返る）対話例2「どのような教員として教育理念を持っているのか」「何を大切にしているのか」（アイデンティティを見つめる対話、学生が教育の意味を語るような対話）

また、学生への質問をあらかじめ書かれたカードを用い、対話に向かうことで、スムーズな対話が進み、よりよい対話を創り出すことが出来る。

### 3-7. マルニクス大学のこれからの教育実践と関わって

実際に行われている省察は次のような対話を中心にすすめられている。例えば、教育実習の場での出来事を振り返る時には、「あなたは何をしたのか」「どうしてその行為をしたのか」という対話モデルに沿いながら展開される。

PDCA モデルを用いながら、大学教員が学生とともに対話を行う。他には、ABC モデル、CORE-REFLECTION モデル等を用いることがある。

マルニクス大学における省察の解説をしたマイカ先生（Ms. Broecheler, Meike）は、独自に「ミニリフレクション」を実施しながら、研究を進めている。このように大学の教員もよりよい省察を探求していることが分かる。言うまでもないが、大学の教員に対しても必ず研修が行われている。

筆者は、新しい養成課程の提案と合わせて、省察についての模索も進められているという印象を強く持った。

#### 4. コルトハーヘン氏の省察モデル<sup>xii</sup> に関して

教育視察では、ユトレヒト大学名誉教授である Fred A. J. Korthagen 氏によるコアリフレクションの研修(2019年2月、2021年2月。会場は、Hotel Midland in Utrecht)を受け、2021年10月3日(日)オンライン講座を受講する機会を得た。

##### 4-1. 2019年の研修内容は以下の通りである。

省察とは、理論と実践を結びつけるものである。教師が教育的な知識を教室で教えるのだが、その成果が現れないことがしばしばあり、教師教育の課題であった。すなわち、理論から実践へのアプローチが失敗していて、その時に行われている実践に適応した理論の見返しができていなかったのである。それらを解決するためには、実践的で理論に基づいたツールが必要とされた。

そこで、教育現場での「リアルな」場面を基礎にした省察、すなわち、実践者の悩みや関心、ニーズを生み出したような場面を取りだし、他者とのやり取りを通して、見返しを行う省察モデルが考案されるに至った。

このモデルは、1 行為 (Action)、2 行為の振り返り (Looking back on the action)、3 本質的な諸相への気づき (Awareness of essential aspects)、4 行為の選択肢の拡大 (Creating alternative methods of action)、5 試行 (Trial) の5つの段階からなり(時計の文字盤に例えると、1と5が3時の位置、2は6時の位置、3は9時の位置、4が12時の位置となるように並べられて)、その頭文字の A、L、A、C、T をとり、ALACT (アラクト) モデルと紹介されている。

##### 4-2. 2020年の研修内容は以下の通りである。

コア・リフレクションは10~15年前にできた新しい省察の方法である。ALACT モデルが課題解決にむけて、自己変容を促すのとは別に、右脳を使った

---

xii Fred A. J. Korthagen の省察モデルは、荒木寿友らの研究論文に詳しい。http://www.ritsumeai.ac.jp/kyoshoku/kankobutu/kiyou/202araki.pdf

省察といわれ、人にとってポジティブな経験を省察することで学べることが多くあるという。そのような自己への探究を通じて人のコア・クオリティを見つけるというものである。人の持つ良さ＝コア・クオリティを中心におく「玉ねぎモデル」を使って説明された。まず、思い出すと幸せ・嬉しい気持ちになれる経験を思い浮かべる行為により、コア・クオリティへの接近が促進される。多くの心理学の研究からいい経験とか強みに焦点を当てると、人は成長することが検証されていることを背景にして、人の持つ潜在的な良さを引き出す営みが紹介された。

#### 4-3. 2021年10月のオンライン講座<sup>xiii</sup>の内容は以下の通り

この講座は、2019年と2020年の内容と重なり、筆者にとっては、それぞれの研修を再確認する内容であった。ALACTモデルを用いた省察が、教育現場での現実の諸問題を対象にした方法であること。諸問題を解決する際に活用する8つの窓という質問を通して、教師が児童に対して行った行為をふりかえり、本質的な諸相への気づき（重要な点はどこにあったのか）を認識することは、そのまま学生が学校ボランティアで出会う児童との対話の諸問題に活用することができる点で、有意義であることが再確認できた。しかし、コア・リフレクションについては、今後の研究によって、より深い学びと理解によって検証することが求められる。

#### 終わりに

2度のオランダ教育視察によって、子どもの幸福度第1位といわれるオランダの教育<sup>xiv</sup>の一端を垣間見ることができた。訪問した学校のどの教員もいきいきと自校の教育を語り、どの学校でもじっくりと穏やかに子ども達と向かい合う姿が見られた。次の機会があれば、教員養成課程に学ぶ大学生は、毎週の教育実習から教員としての学びをどのように導いているのか、学生の視線からみた教員養成

xiii 【フレット・コルトハーヘン教授による リフレクション（省察）体験講座】2021年10月3日（日）17:00-20:00（日本時間）<https://us02web.zoom.us/j/84890248845?pwd=TXh2THAxTzMrVUJweS9HNkpxTjRkUT09>（ミーティングID：848 9024 8845 Passcode：658972）

xiv 中田正弘 教育研究最前線 子どもの幸福度第1位 オランダの教育から学ぶもの 初等教育資料（865）、72-75、2010-10 東洋館出版社

についてインタビューを試みたいと考えている。

\*本研究は 2020 年度一般研究・予備研究（谷班）の研究成果である。